

長期連載論文
第7回

文明の輪廻転生

—アトランティス異聞—

第六章 鍵はエジプトにある

会長 渡辺豊和

エジプトの夢通信遺跡

三輪山の張り出し台地を基点とする菱形ネットワークを世界規模に拡張してみる、ギザの三大ピラミッドが位置する北緯三〇度〇分、東経三一度〇八分の近傍地に夢通信ネットワークの交点を求めると北緯二九度五五分二秒、東経三一度〇二分四四秒である。これを基点として菱形ネットワークを制作すると驚いたことに冬至線上ギザの第一ピラミッド、夏至線上にサッカーラのピラミッドがびたりと寸分違わず乗っているではないか(図6-1)。しかもネットワーク交点をA点とすると、A、ギザの第一ピラミッド、サッカーラのピラミッド三点を結ぶ三角形は三辺の比が三対四対五の直角三角形なのである。手元にある下エジプトの二〇万分の一の地図上で作制したのであるがその三角形の三辺を二〇〇分の一の物差し(但し一

スタジオン一七六メートルとして作製したもので計ると底辺五七、垂直辺八〇、斜辺九八・二となる。

これには作図上の誤差も考えられ、まず三対四対五と考えてさしつかえあるまい。充分誤差範囲と云うことができる。五七は六〇(三)に対して二〇〇分の一の物差を使用していることであるから実寸〇・一五ミリメートル、九八・二は一〇〇(五)に対して〇・一ミリメートルの誤差に過ぎない。製図に熟練した私の建築設計事務所所属員ですら充分の許容範囲である。更に驚くべきことがある。サッカーラのピラミッドとギザの第一ピラミッドとの距離は一四・二キロ。これはエジプトの寸法でびたりと八〇スタジオンである(0.176×80=14.08)北緯三〇度で冬至又は夏至に太陽が没する角度は緯度に対して西北又は

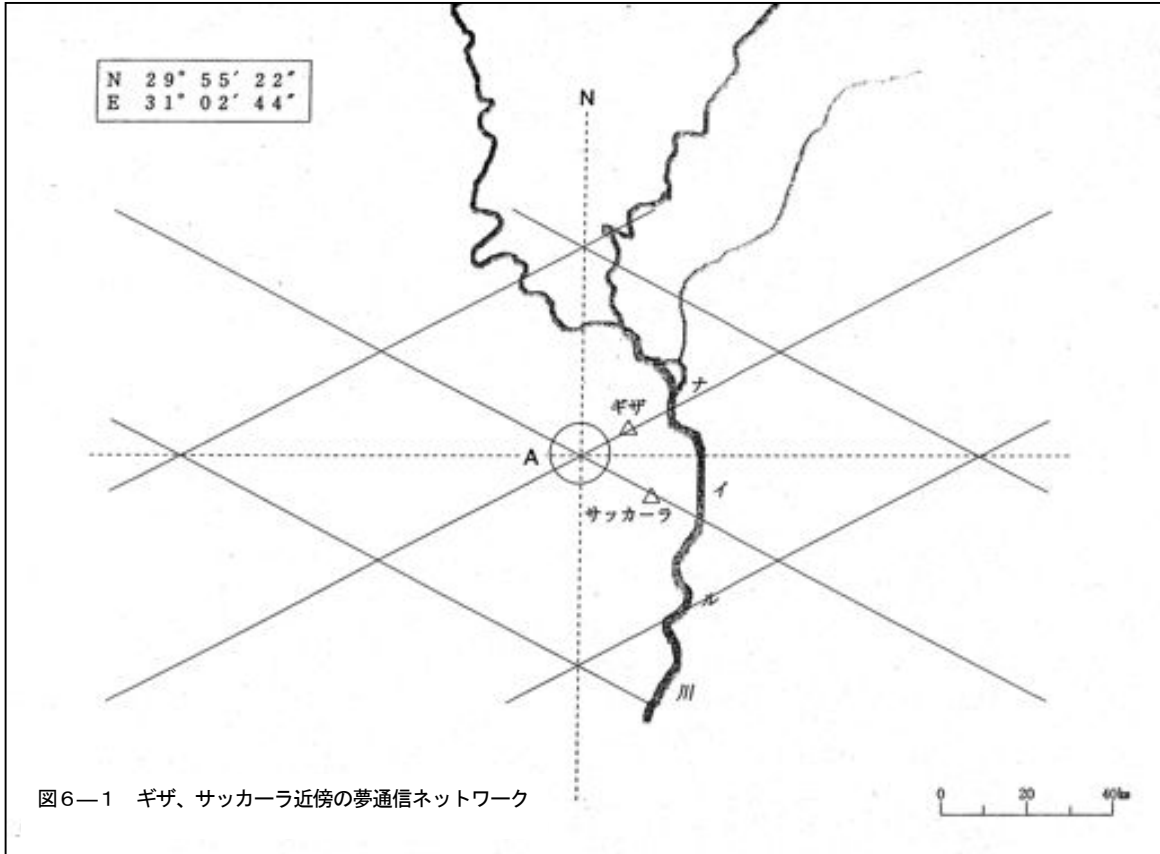


図6-1 ギザ、サッカラ近傍の夢通信ネットワーク

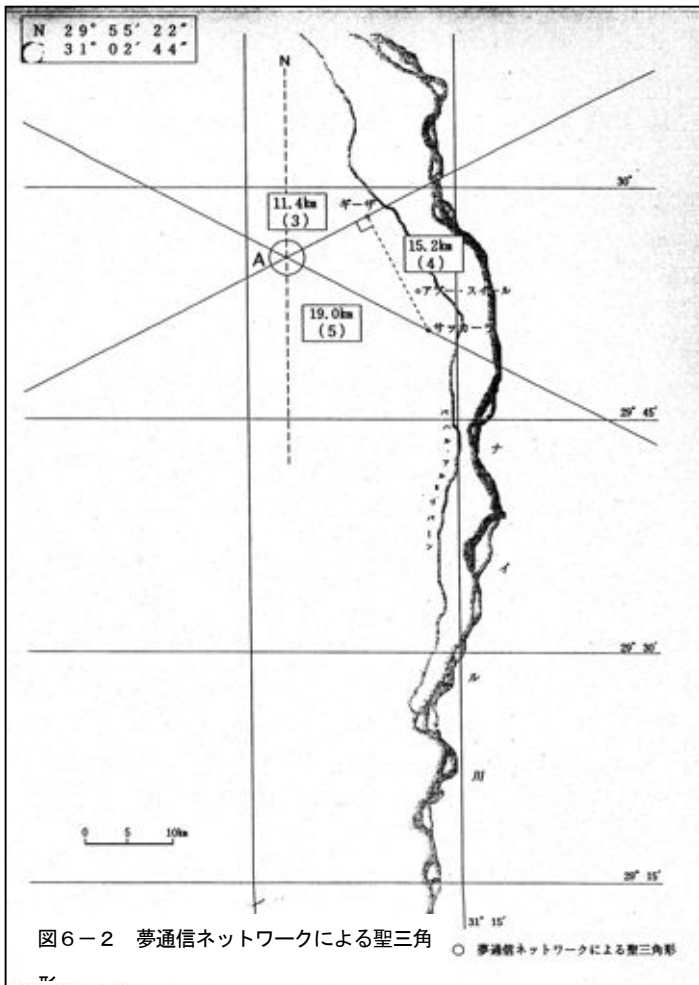


図6-2 夢通信ネットワークによる聖三角

西南に二七度二一分二〇秒であるからA、ギザの第一ピラミッド、サッカラのピラミッド三点を結ぶ三角形の五四度四二分四〇秒（即ち二七度二一分二〇秒の二倍）は三対四対五の直角三角形を生み出す角度であったことになる（図6-2）。

大和三山で描く二等辺三角形の二等分線の方が大和地方の冬至線であり、かつ二等分線で二分された直角三角形の三辺の比が五対一二対一三のメソポタミアの聖三角形であった。エジプトのこの直角三角形が三対四対五のエジプトの聖三角形をなしているからと言って驚くことはないのかもしれない。しかしギザは北緯三〇度と言

う北半球の北極と赤道で成す九〇度分を三等分する位置にあることや今発見した夢通信ネットワークによる、三、四、五の聖三角形を生ずる場所にあたることなどからして、多分世界を覆う夢通信ネットワークの基点はA点であったろう。ここにピラミッドや神殿の痕跡が見出せないのは何故なのか。このことは重大な問題を提示しているに違いない。

サッカーラのジョセル王ピラミッドは階段型でありエジプトの最初の本格的ピラミッドであった。この建造物の建設者ジョセル王は現在も等身大の彫像として殆ど真北の方向を小さなのぞき穴を通して凝視している。これを見た時異様な感に打たれたがこの王こそ地球に張り巡らされた光の夢通信ネットワークの意味を熟知していたに違いない。彼は古王国第三王朝の初代王でありギザの三大ピラミッドを建造した第四王朝のクフ、カフラー、メンカフラーの諸王に先行した偉大なるファラオであっ

た。通説ではBC二八〇〇年頃の人であるが、これはBC三世紀のエジプトの歴史家マネトの編年史によっているに過ぎないから果して本当にそうだったかどうかははっきりしない。多分それよりも相当地代の人でありジョセル王よりも一〇〇年程後の時代人であると見られているギザの三大ピラミッドの王達も同様ではなかったのか。

地球の夢通信ネットワーク

ーク

エジプトの最初の本格的ピラミッドであるジョセル王の階段ピラミッドのあるサッカーラと三大ピラミッドのギザが夢通信ネットワークの重要地点だったとすれば当然光の夢通信ネットワークは全世界を覆っていたと考えなければなら

ない、エジプトと日本とは地球の三分の一周もあり遠く隔てられているのでその両地に同じネットワークが張り巡らされていたと言うならそう考えるしかないであろう。一五年前（九八年現在）にかつて古代に大和三輪山を中心に日本列島に菱形の夢通信ネットワークが張り巡らされていることに気付いた時にはこれが世界までも覆っているものの一部であるなどとは夢想だにできなかった。しかしこれが全世界均等に覆っていたのだとしたらどうなっていたであろうか。前述したとおり西ヨーロッパではこのネットワークは余り作用されていなかったらしいが日本の夢通信ネットワークの発見後世界を巡ってその痕跡を探って歩いた結果、このネットワークはほぼ全世界を覆っていたことは確かめられた。

ここで思い出ししてもらいたいのは一二世紀末イスラムの神秘思想家イブン・アラビーの体験である。地中海を超えてアフリカからスベ

インまで生身の人間が瞬時やって来たと言う信じられない事実をである。これは現代で言うスペースワープが生起したのであろうか。私は先きにはそうではあるまいと言った。夢の幻想共同体に於ける共同幻想がもたらした幻影かもしれないとも書いた。しかし実は必ずしもそうとは言えない現象が現在でも起きている。古代エジプトの遺物に関する超常現象である。これはマイルメーカーとして有名なINAXギャラリーのメンバーから聞いた話である。東京のINAXギャラリーで世界タイル展を開催した時のことであると言う。かつて古代エジプトの墓に貼られていた五センチ角程の真四角のタイルを縦八枚程横六枚程を縦横整然と並べてショーケースの中に入れていたら翌日見るとバラバラに散乱していた。係員が誰かが間違つてそうしたのであると思つて又元のとおりに整然と並べていたら又翌日バラバラに散乱していたと言うのである。余りに不思議なものだ

から散乱した写真を撮ってオリエント文化関係の人々に今までこんなことはなかったかと聞いて廻ったそうである。そうしたらこれよりも不思議なことが起っていることを知った。出光興産のオリエント博物館で古代エジプトの神々の彫像数体をショーケースの中に入れて置いたところ凄まじい音と共にガラスケースが破裂してしまった。それも金槌で力一杯叩いてもびくともしない強化ガラスが粉々に破裂したのである。係員がガラスケースに欠陥がなかったかとメーカーを呼んで詳細に調べさせたがそんなことはなかったはずだと答える。それで全く欠陥がないと確認した新しいガラスケースにこの数体の彫像を入れて置いた。すると数日後又同じ現象が起きた。これは只事でないとい係員達が検討した結果ある重大なことに気付いた。数体の彫像の中にエジプトの神々の中で最も重要なオシリスとその妻イシス更に二神の子ホルスの三体が混じっていてそれが他の

彫像と何の区別せずに置いてあった。これが原因であるまいかと思つたと言うのである。そこでその三体を区別して他の彫像から離し更にオシリスを中央に左右にイシスとホルスを定形に並べてケースに入れた。それで以降ガラスのショーケースが破裂していないそうである。私もそのことは直接オリエント博物館に行き担当の学芸員に聞いて確かめたし、INAXギャラリーでのバラバラに散乱した古代エジプトタイルの様子の写真はメンバーの一人からもらつて今手元にある。INAXギャラリーのメンバーもオリエント博物館の学芸員も異口同音に古代エジプトの遺物には不思議な力があると言う。いずれにしても現代科学の常識では決して起り得ないことである。理論物理学の専門家に聞いても光速の中の宇宙空間でならタイムワープやスペーススワープは起り得るが私達が日常体験している地球上の通常の時速度の中では絶対に起り得ないと断言する。何の力

も外から加えないのに古代タイルが散乱したり、ガラスケースが破裂したりするのは空間が歪んだとしか考えられないがそんなことが地球上で起るはずはない、これがその専門家の見解である。イブン・アラビーの身に実際に起つたこと、現在でも見られる古代エジプトの遺物の発する不思議なエネルギー。これは全世界に張り巡らされた夢通信ネットワークが中世を通じ現代までも生きている証しなのではないか。夢は信じられないエネルギーを内に秘めていることは精神分析学者ユングが証明したがその夢を交信し合う光による夢通信ネットワークも実は現代科学では解明できない技術に支えられてできあがっていたのであろう。

聖三角形と光の夢通信

三辺の比三対四対五の直角三角形をエジプトですでに聖三角形と呼んでいた。直角三角形の長辺の二乗は他の二辺の二乗の和に等しいと言う有名なギリシアの数学者ピタゴラスの定理として知られるがエジプトの聖三角形の呼称からもわかるがすでにそのことは古代エジプトでは熟知されていた。そうでない限りあの精密無比のピラミッドなど建造されるはずもなかったであろう。ピタゴラスが直角三角形のこの定理をエジプトから学んだに違いない。ギリシアの知識人は一度はエジプトに留学し種々の知識を学んだがピタゴラスも同じくエジプトの「秘教」を習得したのであろう。と言うのもエジプトでは科学知識は誰にでも公開されたわけではない。神官を含めた特定の人々にのみの秘技、秘教であったからである。

ピタゴラスの定理とまで言われる直角三角形の定理をギリシアに紹介したのであるからピタゴラスはギザとサツカーラとA点で成す夢通信ネットワーク上の「聖三角形」のことを知っていたのではあるまいか。

ピタゴラスは靈魂不滅を説いた宗教的思想家でありピタゴラス教団の教祖でもあった。彼の思想は肉体を罪悪視し靈魂は人間が生きている間肉体の牢獄に繋がれているが死ぬと始めて解放されて天上に登って行くことができると考えた。又生命は輪廻転生し次々と別の肉体を借りて再生するとも言い、靈魂がぐるぐる廻る無限の輪から解放され難く、これから本当に解放されるためには厳格な心身の苦業をしなければならぬともした。まるでインドの神秘思想家そのものである。これもエジプトで習得した宗教、思想信条だったのでないか。古代エジプトと古代インダスは頻繁な交流があり交易も盛んであった。今にも伝わ

るインド神秘思想はエジプト起源かどうかは定かではないがエジプトの方が明かにインダスよりも文化文明は早く発達したから多分それはエジプト起源であろう。第一古代エジプト人、特に古王国の人々の相貌はインダス文明の未裔と言われるインド南部の古モンゴル種ドラヴィダとそっくりでありエジプトもインドも同種の文化文明であつたらしい。ピタゴラスの宗教・思想がインドに酷似しているのを彼がエジプトで習得したのではないかと思うのも以上の理由からである。ピタゴラスは夢通信の秘技も勿論習得したに違いない。彼が音楽や数学によつて靈魂の救いを言い特に宇宙の調和の原理は数とその比例にあるとした。これは後にプラトンの思想として開花する。エジプトのギザ近傍のA点を基点として光の夢通信ネットワークが全世界を覆っていたとしたら世界全体は整然とした幾何学秩序で統一されていたはずである。それも夢を交信し合う通信の

システムによつていたのであるから肉体同志が直接に邂逅する交流ではない。肉体を伴わない靈による交流が全世界限なく行われていたのが古代文明の時代であつた。これこそイブン・アラビーにスペースワープを実現してみせた靈能者マドヤーンの交流ではなかつたか。

交点は不在のピラミツ

ドカ

さてエジプトの夢通信の基点A点であるがここはそのまま全世界の夢通信の基点でもあつた可能性が極めて高い。しかしこの地点にはピラミッドや神殿はおろか小さな墓陵に至るまで何の遺跡も見出されてはいないらしい。それではこのA点は偶然私が見つけ出した地点でありそれがたまたまギザの

第一ピラミッドとサツカーラのピラミッドを結んでみると、聖三角形を得たに過ぎないだけであろうか。そうではあるまい。この地点に何の遺跡も見られないことにこそ重大な意味が隠されているに違いない。それではその意味とは何なのか。結論を急ぐとすればこの地点の地下には今から六〇〇〇年以前の古代文明の現代からすると超越的に見える科学技術の秘伝・秘義書が埋蔵されているのではあるまいか。モーゼはエジプトで労働者として代々雇われていたユダヤの民を連れてエジプトから脱出しシナイ半島に達した時神はモーゼに告げ十戒を与えたことはよく知られている。この十戒を刻んだ十戒板とこれを入れて持ち運ぶ神輿（日本の神輿と全く同じ形であつた）契約のアーキは大切に天幕の奥に仕舞われモーゼの後継者以外には見ることも触れることも許されなかつた。処がソロモン王の時代に大宮殿を造営しそれを神殿の深奥に秘匿したはずなのに何者

かに持ち去られてしまい、その後現代に至るまでその行方は杳としてわからない。書板は石板であるが契約のアーキは特殊な金属で作られていると言われる。故なくこれを見たり触れたりしたら雷に打たれた様に焼け死ぬことになる。そのみか閃光を放ち有毒な雲すら発生させるとも言う。まさに神の造作物なのである。『神々の指紋』の著者グラハム・ハンコックがこの著作の以前に『神の刻印』を書いているが、これはハンコック自身がアーキの行方を追って旅した生々しい体験談である。ハンコックによるとアーキはイスラエルからエジプトを経て数百年の間徐々に移動させ最終的にはエチオピアのタナ湖の北の聖地ゴンダールの教会に運ばれ現在でもそこに秘匿されているはずである。エチオピアはキリスト教国であるがこの宗派は実はキリスト教以前のユダヤ教の中でも特に古風な教義を信奉している。それは契約のアーキをソロモン宮殿から持ち運

だ時に分派したきりユダヤ教の本派とは縁を断ってしまったからだとする。キリスト教者にとつては十戒板や契約のアーキは重要ではあろうが、事次第によつてはモーゼがエジプト脱出の時に持ち出したエジプト伝来の秘伝秘義の書板が十戒板として喧伝されているかもしれない。十戒板には実はよく知られている「姦淫するなかれ」と言つた単純なことが書かれていたのではあるまい。モーゼがエジプトを脱出できたのも当時のエジプトは乱れ圧政が続いていたから秘伝・秘義書を持出すことができたとし「神の怒り」にも触れることがなかったのではないか。その後イスラエルの民もダビデ、ソロモンの時代には富み栄えたから「神」も秘伝秘義書板を誰かを遣わして取り戻し、夢通信基地であるA点に再び隠してしまったのではないか。それが旧約聖書で伝えられる十戒板の喪失である。奇妙なことにイスラエルの王や民がその後失つた十戒板を必至に探し求めた記

述はない。どうもこれはソロモンも承知の上で契約のアーキを引渡したのではないかと思えるのである。従つてハンコックがいくら探してもエチオピアにそれを見つけないことができなかったはずである。もともとエチオピアには運ばれなかったからである。エチオピアに運んだとの伝承は事の真相を隠すために仕組まれた偽の事件だったに違いない。

三輪山、大和三山とギ

ザの三大ピラミッド

ギザとサッカーが光の夢通信ネットワークの重要な地点であることも日本の三輪山の張り出し台地を基点として全世界にそれを拡張してみた結果発見したのであるからギザの三大ピラミッドやサッカーの神殿複合は三輪山、大和

三山とは密接な関係があることは予想できる。それではどんな関係なのか。三大ピラミッドはクフ、カフラー、メンカフラーと三代続いた第四王朝の王によつて順次作られたことになっている。最近の研究によつてはこの建造年代が大幅に古い時代に繰り上がりクフ王ピラミッドはBC六〇〇年以上前に建造されたと言つて見解も出てきている。となると現在知られている世界の最古の都市、トルコ南部のチャタルフユックと同時代かそれ以前に建造されたことになる。チャタルフユックは市域六ヘクタール、人口六〇〇〇人はあったと想定されているから立派な都市である。三大ピラミッドがこの時代か、それ以前に建造されたとしても別に不思議ではない。但しクフ王ピラミッドの北極星への窓はBC三〇〇〇年代を指しているとのことであるからこれより古い建造年代とすればBC二万九〇〇〇年近い超古代となつてしまう。(才差運動の一周期二万五七七六年であ

るからそれに三〇〇〇年を加える
とほぼこの年代)。これ程三大ピラ
ミッドの建造年代が超古代に遡る
とは思えない。と言うのもこれと
同じ夢通信ネットワーク上の遺跡
三輪山張り出し台地や大和三山の
整形が今から三万年近くも以前の
出来事とは今の所考古学的知見か
らして考えられないからである。

それでも夢通信ネットワークと深
く関わっているであろう巨石遺跡
を探して世界を歩いたがその巨石
遺跡の殆どがBC四〇〇〇年代の
建造であったからエジプトの夢通
信網もBC四〇〇〇年以前には整
備されていたはずである。となる
とギザのクフ王ピラミッドの建造
はそれよりも一〇〇〇年程新しい
ことになり時代が合わなくなる。
しかしもう一つの重要点サッカー
ラの神殿複合の有り様を見るとこ
の疑問もおのずと氷解してくる。
サッカーラは最古のピラミッドで
あるがその最古のピラミッド建造
をこの地にわざわざ選んだのはB
C四〇〇〇年頃にここに夢通信装

置の三点セットが設置され聖域と
して崇められていたからではある
まいか。サッカーラのピラミッド
は広大な神域(東西三〇〇メート
ル、南北六〇メートル)として
重厚な壁で囲まれたほぼ中心に位
置しピラミッドに隣接して東西幅
六〇メートル、南北長さ九〇メー
トルの神殿がある。こんな広大な
神域が設定されていたということ
はこの場所が従来から特別の聖域
であったことを示しているであろ
う。ギザも同様の広大な神域であ
ったのを三大ピラミッドに造り変
えたのであろうか。いずれにして
も三大ピラミッドと大和三山、交
点Aと三輪山張り出し台地とは何
か緊密な対応を見せているのでは
あるまいか。特に示唆的なのは大
和三山と三輪山張り出し台地が描
く三辺五対一二対一三のメソポタ
ミヤの「聖三角形」である。三対
四対五の聖三角形の緯度は北緯三
〇度近傍であるのに対してこの聖
三角形を描く夢通信ネットワーク
の緯度は北緯四三度三〇分である。

メソポタミヤの真北でこの緯度に
当たるところは黒海とカスピ海に
挟まれたカザフ地方の山岳地帯
である。ひよっとしたらこの地に
エジプトのギザ近傍に匹敵する夢
通信の巨大基地があつたのかもし
れない。しかしメソポタミヤに必
ずしもこだわることはないのでは
ないか。ユーラシア大陸の東端に
附着するといつてもいい島国日本
と西のエジプトの両方に夢通信ネ
ットワークの最重要基地があつた
ことの方がむしろ自然ではないか。
三輪山の整形された北側の斜面が
崩落する危険があると奈良に住む
知人から聞いたことがある。もう
一〇年近く前(九八年現在)のこ
とであるがこれを聞いて一瞬ギザ
の第一、クフ王ピラミッドも崩壊
の危機が迫っているのではないか
と直観してエジプトを訪れたのが
八九年の旅行であつた。

ピラミッドは何故造ら

れたのか

エジプト最古のピラミッドはサ
ッカーラの段状ピラミッドであり
BC二八〇〇年頃の建造である。
このピラミッドを設計したイム・
ホテプは宰相でもあつたが、エジ
プト人は三〇〇〇年に亘つて彼を
崇めたのである。ピラミッドを創
意工夫して設計建造した人物が王
よりも崇敬されしかも全エジプト
文明時代でもある三〇〇〇年もの
気が遠くなる長い長い年月に亘つ
て崇められ続けたのはこのピラミ
ッドを造つたことで人々は救われ
たからであろう。しかも人々を救
う働きがこのピラミッドに秘めら
れていたはずである。それは何か。
今から六〇〇〇年前、BC四〇
〇〇年頃に地球はここ一万年の間
で最も温暖化する。この時期に日
本では縄文夢通信網が完備された。
しかしこのBC四〇〇〇年をピー
クに気温が下がりはじめBC二七

〇〇年頃には寒冷化がピークに達する。年間では平均最高時からすれば四度も低くなってしまった。

但しエジプトなどの暑い場所では寒冷化は歓迎すべきことではあった。BC二七〇〇年頃(但しイム・ホテプはBC二八〇〇年頃の人)では現在よりも年平均二度ほど低かったからエジプトは極めて過ごしやすい気候となっていて高度な文明はこの気候の恵みによって花開いた。この恵まれた気候なればこそピラミッドが設計建造されたのだろうか。気候に恵まれ農産物が豊富になり経済力が飛躍的に伸長して都市文明が勃興したがそれとピラミッドの建造は同じ事を示しているとも思える。その華やかな都市文明をもたらした王であるジョセルは崇敬されずにどうしてピラミッドの設計者に過ぎないイム・ホテプが神として祭られたのか。

イム・ホテプについては「下エジプトの王の宰相、上エジプトの次なる第一の者、ヘリオポリスの

高等祭司、首席建築家、主席壺制作者」と刻文された彫刻の台座が残っているが彼はさらに数学者であり物理学者であり石造建築の創始者であった。しかしどれだけ賞賛の言葉を書き連ねられても彼が神になる必然性は感じられない。それでは何故彼は神になったのか。たぶん彼は地球医療の名医だったからこそ神となったのであろう。

BC四〇〇〇年、彼の時代よりも一二〇〇年程前の温暖期エジプトにとつては暑苦しい時代に夢通信ネットワークの重要な三点であったギザとサッカーラとA点を探り出したのがイム・ホテプであった。この三点は人々の記憶から消え去っていたであろう。それを探り出してまずサッカーラにピラミッドを建造した。これはエジプトの人々を救済する行為だったとは言えない。気候に恵まれたエジプトでは特別な救済の必要がなかったであろう。しかしギザとサッカーラとA点が三辺の比三対四対五の直角三角形となる下エジプトの地

はかつて地球医療の夢通信ネットワークの最重要ポイントであった。このことをイム・ホテプは再発見したに違いない。サッカーラに巨大なピラミッドを建造することで

もって寒冷化して困っている地域の人々を救うことを決心した。サッカーラと同時期に建造されたと思えるのがイギリスのストーンヘンジである。イギリスは今でも寒冷地である。そこにあの巨大構造物を造った古代イギリスの人々の数は決して少なくはなかったであろう。むしろ今では想像できないくらい大きな人口を擁していたのではないか。この人々は飢えに苦しまないために神殿を造った。しかもエジプトのサッカーラに呼応してである。たぶんその成果は当時の人々の想像以上であったろう。前述したとおり太田明はギザのピラミッド即ちクフ王ピラミッドとストーンヘンジの北、アヴェベリーのシルバリーヒルと日本の牧野車塚古墳が正確な幾何学関係をなしている指摘している。このこと

からしてもサッカーラとストーンヘンジの関係も決してあり得ない想定ではない。

エジプトはBC二七〇〇年時点では世界文明のセンターであったろう。イム・ホテプは寒冷化による世界の危機を救済したのである。それで彼は神として崇められたに違いない。

砂漠のピラミッドと密

林のピラミッド

砂漠の中では物音と言えば耳を通過していくかすかな風の音くらいであり静寂そのものである。ギザの三大ピラミッドが建つサハラ砂漠も普段は何の物音もしない。まさに死の世界である。エジプトのピラミッド以外ではメキシコの

マヤのピラミッドがよく知られている。しかしマヤの北にあるアステカは砂漠とまでは言わないが乾燥地である。そのテオティワ坎の緩い勾配の太陽と月のピラミッドと違ってマヤのものは恐ろしく急勾配である。少なくとも六〇度を越す。マヤは深い密林に覆われている。乾燥地としての砂漠であるサハラ東端に造られたギザの三大ピラミッドは安定した角度の四角錐であるのに密林にあるメキシコ、マヤのパレンケ等のピラミッドは急勾配のどことなく不安定な塔状ピラミッドであるのには深いわけがありそうである。

特にウシュマルのピラミッドの勾配は急である。しかもマヤのピラミッドの頂上には矩形箱型の上屋が乗っている。何故砂漠のピラミッドが安定した角度の完全四角錐で密林のピラミッドが階段型で急勾配の塔状なのであろうか。砂漠は人間の感官としては耳にあたり密林は鼻である。ギザの三大ピラミッド、特に第一ピラミッドは

宇宙人が発着するための宇宙船のステーションであったとデニケンなどは本気で信じている。確かにそう感じても無理がない印象がある。あの静寂そのものの砂漠で宇宙から通信されてくるどんな微細な情報でもキャッチしそうな不思議な構築物としてピラミッドが造られたかに見える。まるで地球の耳を補強するための補聴器である。

密林には強烈な集中豪雨スコールが降る。密林は鼻にあたり嗅覚を司るが地球にとつての匂いとは何であらうか。旧約聖書には芳香のする甘い雨が降ってくる話がある。密林では芳香のする甘いスコールが降ることが期待されているのであろうか。ピラミッドが塔状であるのは天を突き刺すためである。人間の耳が平板で鼻が隆起していることと砂漠の安定、密林の塔状と関係があるのであろうか。恋人の発する匂いが甘美であるように人は憧れ愛するものが芳香を発していると思いつつとりする。鼻はその意味では最も精神的な感

官なのかもしれない。密林は地球が愛する他宇宙の芳香を嗅ぐ場所なのであろうか。少なくとも密林は生物がもつとも稠密に生育存在する場所ではある。生物は宇宙から発信して来る様々の情報に敏感に対応する。言ってみれば密林は宇宙情報の受信センターである。

このピラミッドが塔状で天を突き刺しているのは天空からの情報を細大洩らさず受信できるために違くない。しかも宇宙情報のうち最高の価値あるものは芳香なのであろう。旧約聖書でも至福の恵みが芳香のする雨であったことはこのことを如実に物語っている。この時地球は最も愛する他宇宙からの愛の通信をこの芳香とともに受け取ったのであろう。

病んだ地球が癒えた時に階段型塔状ピラミッドはその情報と芳香を正確にキャッチしたのであろう。

了